

# 大学における工学と医学との コラボレーション

**入場  
無料**

日時 平成27年10月24日(土)14:00~16:30

会場 金沢大学サテライト・プラザ (金沢市西町三番丁16番地  
金沢市西町教育研修館内)

進行 横山 壽一 金沢大学地域連携推進センター長

## 講演 1

### 「日常動作におけるリスクと対策」

長宗 高樹 (福井大学大学院工学研究科准教授)



日常生活において、「歩く」と「つかむ」の2つの動作は最も頻繁に行われます。しかし、老化とともにこれらの能力は変化するとともに、その変化は日常生活における動作を困難にするリスクを伴います。一般的にこのような変化の一つにサルコペニアが知られています。本研究室では、これらの動作を計測するシステムを開発しています。これまで計測した日常生活の動作パターンと既に報告されている内容についてお話するとともに、サルコペニアの対策について考察します。

## 講演 2

### 「血圧計のしくみと正しい測り方」

田中 志信 (金沢大学理工研究域教授)



病気の診断や治療に使われている「医療機器」は現代医療に欠かすことの出来ないものとなっています。また最近では健康志向の高まりとともに医療機器は家庭にも広く普及しており、その代表例として「家庭用血圧計」があります。本講演では、市販されている血圧計の仕組みと正しい測り方について判り易く説明するとともに、大学における工学と医学のコラボレーションの例として最先端の血圧計測技術について紹介します。

## 講演 3

### 「機械で臓器が作れるか」

中村 真人 (富山大学大学院理工学研究部教授)



『機械で臓器が作れるか』、なぜ、こんな研究を始めたのか？  
心臓も腎臓も、今の移植医療は、誰かの臓器を待つしかありません。しかし、「臓器が必要」といくら叫ばれても、誰にとっても臓器はかけがえないものです。21世紀は科学の時代。なのに、今のまま誰かの臓器を待つ医療でいいのでしょうか？そこで、私たちは必要な臓器を科学の力で作る時代を目指しました。iPS細胞の発明で、望みの細胞が得られる時代が一気に近づきましたが、細胞が得られても、臓器を作るには細胞から臓器を作る技術がなくてはなりません。本研究室では、そのための技術開発・装置開発に取り組んでいます。今こそ、工学と医学が一緒になって、科学の時代の新しい医療を創る時です。

[お問合せ]

金沢大学地域連携推進センター  
〒920-1192 金沢市角間町  
TEL 076-264-5272~3  
FAX 076-234-4045  
E-mail kaihou@adm.kanazawa-u.ac.jp

[主催]

富山大学  
金沢大学  
福井大学

北陸先端科学技術大学院大学

[後援]

富山県教育委員会  
石川県教育委員会  
福井県教育委員会

